

D0に誘引される英語動詞群の意味分析

IT0, Koichi / 伊藤, 幸一

(出版者 / Publisher)

法政大学教養部

(雑誌名 / Journal or Publication Title)

法政大学教養部紀要. 外国語学・外国文学編 / 法政大学教養部紀要. 外国語学・外国文学編

(巻 / Volume)

65

(開始ページ / Start Page)

31

(終了ページ / End Page)

41

(発行年 / Year)

1988-02

(URL)

<https://doi.org/10.15002/00005509>

DO に誘引される英語動詞群の意味分析

伊藤 幸一

はじめに

幼児でも、五体満足であるならば、手足は自由に動かさず、いくら「落ち着きがない」と叱られても、はしゃぎ回る。身体は動くように出来ているのであり、そらない方が異常なのである。

しかし知識の蓄積と共に思考が発達し、回りのことを考慮できるようになると、つまり物心がつくと、いわゆる学習による所が大であるが、落ち着きが出て来て、そのようなことがなくなる。意識して、あるいは意図を以って行動するようになったからである。そこで、行動によって思考が判断され、わけの分からないことをやっていると、「何を考えているんだ」と疑問視され、非難される。

知識や思慮分別があると、なかなか行動には出られず、優柔不断になりがちであるが、それでも刹那主義的に、すぐ行動という軽佻浮薄な人もいる。良く言えば、前者は思索・理論派で、後者は行動・実践派であろうか。考えると行動はとれず、行動すれば思考は働かず、頭脳と肉体は、そのような関係にあるように思われる。一方に偏ることのないバランス感覚が必要であろうか。

本稿は、このような背景において、行動に関し「為す」とか「成す」で表わされる遂行・成就等にかかわる英語動詞表現を意味分析する。「口・手・足から連想される」動詞群の表わす基本的所作・動作等に端を発する、いわゆる肉体行動だけでなく、言語行動も含まれる。無言で行動する場合もあるが、お喋りは付きもの、ときには言語行動だけが問題となることもある。

便宜的表現を用いて『個人的』『社会的』と大きく分類するけれど、まず全般的な流れを述べた後、それぞれ、理解し易い、視覚的な物理的变化をもたらすことから考察する。変化、つまり今迄とは違ったものを求めることは進歩であり、良いとする風潮もあるが⁽¹⁾、そうであろうか。また、どんな行動であれ creative あるいは productive であることが求められるけれど、やはり、そ

れて良いのであろうか。しかし、少なくとも negative ではなく positive なものを想定して、どちらかと言えば、むしろ抽象的な表現・意味へと分析は向かう。

個 人 的

初めに、行動に関し、底流となる全般的流れから考察してみよう。何をすることにしても、まず始めなければ、取り付く島もない。

《BEGIN・TRY・EXERT》 始めるの意で最も一般的な表現は BEGIN であろう。上手く始められれば、既に、もう、半分、成就したも同然である。熟練を要することに関して初心者は、この表現を借りて beginner と呼ばれる。START は瞬間的に、今迄とは別の行動を取ることを強調している。具体的には、その場を離れ、出発することにも適用される。

人生を旅、それも船旅に譬えることがあるが、船が造られ活動を始める前、初めて水に接すべく、陸から滑るように進水する LAUNCH や、後に、船出すべく甲板に荷を積んだり、人々が乗込む EMBARK も仲間に加えられるだろう。形式ばった、あるいは文語的表現として、準備段階がすみ、暗れがましく別の世界へ入って行くことを暗示する COMMENCE ある。 INAUGURATE が挙げられる。今迄知らなかったことに誘い、初歩の手ほどきを連想させる INITIATE もある。

「まず始める」と言っても、実は、それが問題なのである。上手くやれるかどうか、あれこれ考えていると、二の足を踏み、躊躇せざるを得なくなる。進取の気性がなくても「案ずるより産むが易し」で、やってみれば良いのかもしれない。

結果は考えずに、ともあれ、試しにやってみるのが TRY である。最も一般的な表現であろう。誰もやっていないことならば、試行錯誤も致し方ない。文語的表現の ESSAY も挙げておこう。攻撃を掛けるように、逸っての ATTEMPT もある。ことによっては準備万端怠りなく、途中で止めて、未遂になることもある。冒険心を以って、危険なことに思い切って挑むのが VENTURE であり、自信のないことに対しても、勇気を以って大胆果敢に取り組むのが DARE であろうか。遂行を引き受け、請け合う UNDERTAKE もある。

事を為そうとする気持が強く、厄介でも努力を続ける ENDEAVO(U)R は「為せば成る」といった感じであろうか。更に、苦闘するのは STRIVE であ

る。これと、更に強烈な足掻く・腕くの STRUGGLE は、他との競争も暗示するので、ここで挙げるのは問題なのかもしれない。

ここで、行動の際には、それなりに持続する努力が必要であることが分かるけれど、それを明確に意味する表現もある。最も一般的表現としては WORK で、精神的にも肉体的にも、精一杯努力することである。弛まず汗水垂らして励むのが LABO(U)R で⁽²⁾、文語的表現として、骨を折る TOIL も挙げられるだろう。ついでながら、これらの表現はどれも、苦しみながら骨折って進むことも意味する。当然、ある目標(地点)に向かってであろう。途中で「何故にこんなことを」と思うときもあろうが、何をするにしても持てる力を充分発揮し、尽力奮闘する EXERT は、人間の真の姿であろうか。

ところで EXERCISE も、持てるものを充分働かすことに適用されるが、加えて、定期的に繰返し、内在する能力を引き出し鍛えることをも意味する。特に手足を用いての運動だけでなく、知的なものにもあてはまる。同様にして、頭で theory ばかり考えていないで、実践するのが PRACTISE である。繰返し行なうことで習慣となり、仕事にまでなるか。習うよりも慣れることで、完璧なものが出来上がる。穴あけのドリルの如く、同じことを繰返し、肉体が覚えてしまう程に、たたき込む猛訓練は DRILL である。肉体だけでなく、知的なことに対しても、体系だてて行なう TRAIN が、また、これに加えての精神的修業には DISCIPLINE が適用される。

それなりの知識や技術が身につくと、それだけで、充分何かをやったことになるだろうし、後述のように、何かを得ることになろう⁽³⁾。また、いざという応用段階では、それなりの助けとなるはずだし、助けとしなければいけないだろうか。ここで、より具体的な意味での実践を考え直しても良からう。

《GO・DO・COMPLETE》 考えているのではない、実践するんだ、というになると、ジッとしていないで、まず手足を動かすことが先決であろう⁽⁴⁾。自分自身にも回りの人にも、「何かやるゾ」と思わせしめる。とにかく立ち上がって体勢を整え、一步でも歩を進めることではなからうか。

その場を離れて、気合いを入れて、何かをすとなれば GO である。どこかへ向かって進むことを意味する最も一般的な表現であろう。暇ごいをするまでもないけれど、その場を離れることを強調するのが LEAVE である。手中にあるものならば手離して、そのまま後に残すことになる。QUIT も同様な意をもつ。形式ばった表現として DEPART が挙げられるが、計画を練った後、つ

まり、どこか目的地に向かって出発することである。保守的な常軌からの逸脱をも意味するが、事を為すことの裏側を暗示しているのであろうか。

出発した後、ある目的(地点)に向かって前進するのは ADVANCE であり、熟練への課程において、初心者が進歩・上達して上級者になることを連想させる。茫漠たる平原を行くが如く、それなりの目的(地)はあるが、昨日よりは今日、今日よりは明日と前進し、進歩するのが PROGRESS である。PROCEED は、一連の行動過程において、更に前進することを強調している。方向性をもたない単なる移動は TRAVEL であることを、ついでながら記しておこう。

ここまで来ると、核心に迫らざるを得ない。意図を以って行動を取っていることを意味する最も一般的な表現は DO であろう。本稿のタイトルの一部として借用される程、包括的かつ代表的表現である。形式ばった表現に PERFORM がある。行動の過程には、視覚に訴えるような、それらしい形式が存在することを物語っているのであろうか。人生を芝居に譬えるまでもなく、各人、社会における立場や人間関係において、なんらかの役を演じているのである。これらの表現には遂行だけでなく完遂の意も含まれるが、特にそのことを強調した表現もある。それなりの能力を以って、計画通りに遂行・成就するのが EXECUTE であろうか。

それなりの能力も努力も存在するのであろうが、それよりも、しかるべき結果・効果をもたらすことを強調しているのが EFFECT である。請け合ったものを曲がりなりにでも、一応、満足いくように果たす FULFILL、—FIL も挙げておこう。努力の結果、意図したことを完遂・達成、特に、多技多芸を連想させるのが ACCOMPLISH である。首尾よく完遂、努力の持続ばかりでなく、能力を駆使して偉業を達成するのが ACHIEVE で、学力についても適用される。

ただ為し遂げるだけでなく、完成に当たっての仕上げを強調している表現が、いくつかあるので挙げておこう⁶⁾。一応、欠けた部分がない、文句のつけようのない状態に仕上げるのが COMPLETE で、更に、申し分ない上に素晴らしいの加わった状態にするのが PERFECT で、真に、しかるべく仕上げるのが FINISH である。

これで行動は完了になるけれど、意図通りに事が運んだかどうかは別にして、それを強調する表現も、ついでながら挙げておこう。最も一般的なのは END であろう。目的が果たされていてほしいとの願いが込められているのであろう

か。期間などを区切ることを連想させるのが TERMINATE である。開かれていたドアを閉じるようなのが CLOSE であり、一応の結びの言葉で終わらせるのが CONCLUDE であろう。それぞれ、意図が果たされた以降のことならば望ましいだろう。

《REACH・GET》 ある場所を離れて、それなりの目的(地)を目差して前進すれば、ある段階から、到達という概念が介在してくる。最も一般的な表現は REACH であろう。手を伸ばして意図するものに触れ、手中にする、といっても、遠くに離れているものならば、移動しなければ行なえない。GAIN にも、その意があるけれど、むしろ努力の果てに、運も手伝って、しかるべき目的を達し、何か望むものを獲得、あるいは上達することを意味すると見る方が妥当か。同様だけれど、それ相応に得るのが困難な、素晴らしいことが対象であることを強調している ATTAIN も仲間に加えられ得る。ついでながら OBTAIN になると、運あるいは他の人のお陰で、もたらされる場合もあるようだが、むしろ手に入れることを強調しており、この後に記した方が良いだろうか。

到達の意味も含めて GET は、結果として何かを獲得することを強調する最も一般的な表現であろう⁽⁴⁾。勝負などの結果によるのが WIN であり、汗水垂らした挙句は EARN である。策略を用いて必需品を調達、といった趣きの PROCURE もある。安全に他から確保されるのが SECURE であろうか。ゆっくりと着実に獲得されたり、身につくのが ACQUIRE で、既述の絶えざる地道な訓練による技術等を連想させる。

折角何かを始めても、途中放棄してしまったのでは、何をやったか分からない。それでも何かを得られる、と言うかもしれないけれど、為し遂げて完了としたい。感激と共に、何かを得ることになろう。為し遂げたという満足感か、それとも充実感か、自信といった以降の行動の根となるようなものであろうか。中途半端よりは、経験として、豊かな人間性を得ることにはならないだろうか。以上、行動に関して、個人的側面を強調して考察してみた。

社 会 的

既に述べたように、自分が動くことから実践行動は始まるけれど、加えて、日常生活は、まったくのひとりで営まれることは稀で、回りの何かに作用し、動かすことにもなる。回りには人もいるし、物もあり、状況もある。そちらの

側面に注目し『個人的』に対して『社会的』と便宜的に呼んで、考察し直してみよう。

《MOVE・CHANGE・IMPROVE》 まず場所、位置の移動の変化に照準を合わせることになる。最も一般的な表現は MOVE で、広い意をもつ⁹⁾。大きな動きではないけれど、容易に動かせるものに対しては SHIFT が適用されるか。これをしないと無策だとか、意気地なしだとか、反面、度を越すと、落ち着きがないとか言われかねない。距離の隔たりを感じさせることもある REMOVE は、特に引越など、移転を連想させる。元の場所から言わせれば、除去ということになるか。形式ばった表現に TRANSFER があり、あちらからこちらへと移し換えの前後を強調する。

これらの移動に関しても適用されるけれど、どちらかと言えば CHANGE は、変化、つまり差異を生じさせることを強調する最も一般的でかつ広い意をもつ表現である。ALTER も場所の移動を含むが、どちらかと言えば、表面的な部分的変更を強調する。状況に応じて、僅かながら多様に変化するのが VARY であろうか。逆に、極端なものを程良く修正する MODIFY もある。CONVERT は改宗を、すぐに連想させるが、新たな状況変化に対して、有効に転換を計ることを強調していると考えて良いか。

形式ばった表現であるが、質を含めた全体像の変化にかかわる表現も、いくつか存在する。TRANSFORM, —MUTE, —FIGURE, —MOGRIFY は、それぞれ、生物の変態、錬金術の変成、形而上の変貌、魔術の変身等、特殊な変化を意味する。

既に、新しい状況変化に対して、上手く機能すべく適応を意味する表現も見つかるけれど、積極的な適応は ADAPT であろうか。部分的に、僅かに調整しての順応は ADJUST である。ともあれ、結果として、調和のとれた状態に適合させるのは、一般的に FIT であろうか。米口語では FIX にも類似した意があるが、破損したものなど、上手く機能するように整備・修理する意もある。

ここで破損・欠損など、壊れたりして機能を果たせなくなったものを、然るべき状態に直すことを明確に意味する表現もある¹⁰⁾。最も一般的な表現は MEND である。生物にも適用されたり、改良の意もあり、誤りなどにも適用される。過ちを改めるに遅すぎることはない。REPAIR は少しばかり、大仕掛けだったり、複雑だったり、専門的な技術も必要とされるが、PATCH は欠損部分に小片をあてがって、つぎはぎすることであり、パッチワークを連想

させる。

ここで気づくように、しかるべき状態にするということでは、欠点や誤りなどを改めることも含まれるだろう。悪幣など、誤りや欠点を矯正するのは、形式ばった表現の RECTIFY であろうか。同様にして欠点・欠陥に対しては REMEDY である⁹⁾。改める意の AMEND も仲間として加えて良いか。しかし、これと、全体的には良いのだけれど、部分的に、明らかな誤りを訂正する CORRECT は、改訂の意もある REVISE などと一緒に、文書・文章・文字に関しても適用される。

一方、全体的に問題なので改正・改革することを強調する REFORM となると RE-FORM つまり、再び新たに作り変えることにもなりかねない¹⁰⁾。具体的問題点はないけれど、更により良くするために改良・改善することに対しては IMPROVE が適用される。部分的に補強・是正して、より高いレベルに引き上げるべく、進歩・上達を計ることであろうか。口語的表現に BETTER があり、同様に、全般的向上を意図する。

《MAKE・BUILD・FOUND》直すとか改めるとか、ということになると、以前の状態を全く想起させない程の変化が起きている場合があることは周知の通りである。一部、記したように、それ程、徹底的ならば、新たに創造したことと同じである。作ることに對して最も一般的な表現は MAKE であろう。当然、広い意をもつ。

然るべき形式をもった、つまり、それなりの構造をもったものを作ることを強調しているのが FORM である。SHAPE は、結果として、ある外形をもったものを作ることを強調している。物ごと、形をなさなければ把握しづらい。柔らかいもの、例えば粘土などを練って、あるいは(鋳)型にはめて形作るのが MO(U)LD であり、鍛冶屋さんのように、固い対象物を熱したり、たたいたり、汗水垂らして形作るのが FORGE である。FASHION は、これらの行程における、工夫された方法に注意を向けさせる。FRAME は骨組みを重視して形作ること、対象は建造物といった趣きも出てくる。

明確に建造物、つまり各部の材料を集めて、少しずつ着実に積上げて、組立てることを意味する表現もある。最も一般的なものは BUILD であろう。特に垂直に高く築き上げることを ERECT は強調し、設立の意もある。CONSTRUCT は形式ばった表現で、各部分を積上げる際の整然たる知的過程を強調しているか。ところで、一般的に、部品を集めて組立てるのは ASSEMBLE で、大々

的に流れ作業でのこともある。手で作るといっても、今なら機械によることになるのが MANUFACTURE で、工場における大量生産を連想させる。そこで作られた部品で組立てるのが FABRICATE であろうか。

特殊なものを挙げると、作詩や作曲をするのは COMPOSE であるが、構成要素の明確なものも対象となる。例えば委員会のようなものに対して、同様な意をもつ CONSTITUTE と共に適用される。一方、非常に包括的な、抽象的な表現を挙げると、無から有を創造するのは神の為す業であるかもしれないが、独創的なものに対して CREATE が適用される。創作過程は問題としない。同様に、目の前に以前なかったものを現出させることは PRODUCE である。生物的生産が第一義であるが⁽¹¹⁾、産業社会では、いかに効率よく生産性を高めるか、その行程がよく問題となる。

既に、組織立ったものを作り出すことを暗示する表現を見い出せるけれど、明確に、そのことを意味する表現もある。まとまりのない人間関係に形を与え、意図を以って構成することも、ここに記して良からう。建造物に譬えれば、土台を敷設し、創始することを強調するのが FOUND である。ESTABLISH は形式ばった表現であるが、不安定状態を落ち着かせ、定着確立することであろうか。創設と存続を暗示する。INSTITUTE は学術的なものを連想させるが、設立後に関しては問わない。いくつかの部門を取り決め、上手く機能するように配置し、組織するのは ORGANIZE である。

《HANDLE・CONDUCT・MANAGE》 これらの過程を含め、以降の存続や維持を望むならば、実践せざるを得ないのが、人や物、あるいは状況に対する対処や処遇である。それなりの態度で接するのは TREAT であり、DEAL は商品などを扱うことで、商売や実業に関しては TRANSACT が適用される。取扱いにしても、具体的に手を連想させる表現として HANDLE がある。MANIPULATE も同様に、巧みな操作を強調しており、誤魔化しを暗示することもある。

人生や行動は、ときに、道や旅に譬えられるが、人々の接触に関しても応用され得る。道案内、あるいは人を導く際には、経験があったり、知識に裏付けされる行動力を持っている方が説得力があるように思われる⁽¹²⁾。同行する上に、率先行動で先導するのは LEAD であろうか。同じく同行し、親しく知識や経験を示しながら案内するのが GUIDE と言えるか。CONDUCT は、途中ある程度まで誘導し、とりしきり、後は任せることか。自分は同行せず、指図する

のが DIRECT である⁽¹³⁾。ついでながら、車や船などに導くならば、操縦を意味する STEER とか NAVIGATE が適用される。

これらは当然ながら、より抽象的な状況にも適用されることは言うまでもない。更に、いくつか重要な仲間を付記しておこう。RUN は事業や経営を連想させるけれど、細かなことに関して指示し、どうにか上手く取り繕っていくのは MANAGE であろうか。人間関係だけでなく、あらゆることを手中に収め、思うがままに支配し、操るのが CONTROL であり、前面に立たず、裏で工作する方がそれらしい。

ついでながら、大規模な組織になると、トップに立って REIGN しても GOVERN はしない、つまり統率はしない場合もある。DOMINATE は支配することか。一方、思うがままに独裁、君臨するのは RULE であろうか。整然と秩序を維持すべく行動を規定するのは REGULATE であり、ADMINISTER は奉仕するはずが管理するといった感じであり、見ていて、監督するのは SUPERVISE になるだろうか。

《CONQUER・SUCCEED》 人が人を扱かうことになる、人間の尊厳を損なわせしめる行為・行動もあるかもしれない。人間は、いかに政治的動物だからといって、許せない状況や問題を生ぜしめることもある。これらを含めて、矛盾や葛藤や感情等、困難を乗り越えないといけない。人間生活におけるサバイバルの問題は、厄介で複雑すぎる⁽¹⁴⁾。大袈裟かもしれないけれど、それを打破し、征服するのは CONQUER であり、文語的表現に VANQUISH もある。SUBDUE も仲間に加えておこう。どちらかと言えば、克服するのは OVERCOME あるいは SURMOUNT であろうか。

これらの果てに、才能も努力も運もあって始めて起きることではあるが、個人的な企てが成功し、望んだことが達成されるのは SUCCEED である。孤立しているよりも、誰かの後を引き継ぐ方が、その可能性が大きいのだろうか。特に物質的側面において、順調に成功が続くのは PROSPER と言えるか。動植物の繁茂のように、更なる成長を遂げることを強調するのは THRIVE であり、同様な FLOURISH は、花なら満開で、華麗な隆盛を極めることに適用される。社会的に成功しても、気付かずに人を押し退け、個人的に何か大切なものを失うことがなければ、と思う。

ま と め

行動には言語行動と肉体行動のふたつを見て取れる。一般的には後者だけが話題となるが、それでは片手落ちである。行動は思考の現われて、行動を見ることで考えていることが分かる。しかし、見るからに、いつも動的な行動を取るからといって、必ずしも思考が活発なわけではないことは、良く知る所である。静かに、ゆっくりと流れる川は深かったりする。ここで「分かる」と言うのは、表層的なことではなく、衷心から真剣に考えていることについてである。思考に関して、第三者は、直接的に知覚できないので、行動を糸口とするのである。

社会生活は言語によるコミュニケーションそのものであると指摘できる程の言語行動に関して言えば、首尾一貫している発言は、これに当たるのではないだろうか。しかし言語は嘘もつけるし、誇張も出来る。肉体行動に関しては、いざ知らず、誠実な人でさえも、取り繕うことはある。また、言語的・中間世界に、どっぷり漬っている人は、表面的にしか考えられず、言語だけ流れて完結してしまう可能性をもつ。言語の意味は行動であり、言語行動の真偽は肉体行動によって証明され、暴露されることを承知していないのである。

これら一見、流暢な言葉も、ひとたび問い直してみると、支離滅裂であったり、奥底がない故に、平気で、間、髪を入れず矛盾することを言う。極端な場合は、同時進行している言語行動と肉体行動が矛盾することさえある。口ばかりでは信憑性に欠ける。

つまり言行一致において初めて、思考の世界をかいま見ることが出来る、と言って良いだろう。有言実行で良い。不言実行も含まれる。実行の伴わない理論は無に等しく、実践されて後に初めて、その考え、その人物の真価が見直されるのである。しかし、これは、個人的なレベルの話であり、社会的レベル、特に現在のような情報社会においては、複雑なことなので、ここでは触れない。

本稿は、前半を『個人的』、後半を個人的ではないということで、便宜的に『社会的』と分類したけれど、文法的品詞分類の自・他動詞に対応する部分もある。しかし、飽くまで意味的な分類であり、簡単に言えば、話題の行動の重点が動作主に置かれるか、それとも他に、あるいは他との関係に置かれるか、どちらを強調するかである。それでも MOVE, CHANGE などに代表される

表現は、自・他動詞の両機能をもち、どちらにも分類され得る可能性をもつ。また、いくつかの別の意味場と交差するけれど、どこまで言及し、扱うべきか、別の機会に述べることにしよう。

毎日の忙しきにかまけ、惰性に流され、停止していた思考が、ふと目覚め「こんなことではいけない、何か、しなければ」と思い立ったとでも想定してみたら、本稿の論旨は、把握し易いかもしれない。とにかく何でも良いから始めてみよう。しかし、今の生活を変える勇気も冒険心もない。遠くから見ていると、切り立った山でも、近くに行き登り始めると、絶えず厳しい登り坂ばかりではなく、のどかな平らな所もあることに気づく。精一杯の努力をしてみよう。目頃、同様にして、知的にも肉体的にも、持てる力を引き出し、養っておく必要もあろう。さすれば意欲も湧いてくる。

考えていないで実践するのである。身体は動くように出来ているのだから、前進するのは、いとも簡単であらう。いつもの場所を離れるだけでも世界は変わる。能力も必要であらうが、そのうち、いつしか到達点に近づき、意図することも成就できる。画龍点睛も必要か。それによって何かを手に入れ、個人的には豊かになれるのではなからうか。

自分が動くことで、回りにも影響が出てくる。まず、移動や変化をもたらすことになるか。新しい状況に対する適応や、然るべく直したり、改めたりもある。余りの大変化ならば、新しいものを作ったも同然である。形作ったり、組立てたりもする。

これらは人間関係に関してもあてはまる。今迄の人間関係を作り変え、然るべく移動させ、先導することにもなる。複雑な人間関係を克服して、始めて成功を取める。社会的成功は、結果を見て言うのだけれど、途中の個人的なこと、つまり、どのように考え、どのように行動したかも重要である。社会的成功と、個人的豊かさを得ることとは別のことであり、一致しないことがある。

理解を促すべく、具体的英語表現は言及せず整理し直してみた。誤解はないか、遺漏はないか、論旨に矛盾はなかつただろうか。補足しなければいけない部分もあろうが、また別の機会に委ねよう。

注

- (1) ここで思い浮かぶ *A rolling stone gathers no moss* の解釈は、英・米語で異なると聞く。例えば、米語では転職は才能の証しであるが、英語では、さほど好意的には評価されない。
- (2) 「案ずるより産むが易し」で始めても LABO(U)R や、この仲間の文語的 TRAVAIL

は陣痛の意もあり、「産む」こともまた、大変な労苦であることが分かる。

- (3) 最近は何でも「学校」があって教えてもらえる。そして先生の前では出来ても、ひとりだと出来なくなる人がある。思考が働いていないのであろうか。何ごとであれ「自分なりの道」を会得しなければ、その意義はない。
- (4) MOVE を言及すべきかもしれないが、後の『社会的』で考察する。「物理的動きに関する」とでも呼べる意味場で別途に論じるべきであらうことは、既に指摘したことがある。言語行動も行動の一部であることを示唆しているのであろうか、すぐ後に言及する ADVANCE と共に意見の提出をも意味する。
- (5) 洗練、精巧、優美などを連想させる REFINE, ELABORATE, POLISH 等は隣接する仲間であらうか。
- (6) 既に GET は「口・手・足から連想される」動詞として考察したことがあるが、人を介しての「物の移動に関する」意味場で、更に論ずるべきであらう。
- (7) MOVE, TOUCH, STRIKE 等、快い「精神的变化を連想させる」動詞群の一部も、ここに加えられ得るだろう。MOVE に関しては注(4)も参照されたい。物理的变化ということになると切斯、分割、接合などの意味場が見え隠れする。
- (8) WORK, ACT, FUNCTION, OPERATE 等、機能するの意をもつ一連の表現がある。RESTORE, RENEW 等「精神的变化を連想させる」動詞群の一部も、ここに加えられ得るか。
- (9) HEAL, CURE, 別の意で後述する TREAT 等もここに加えられ得るだろう。
- (10) REBUILD, RECONSTRUCT 等、仲間に加えられ得る。
- (11) GENERATE, PROCREATE, PROPAGATE, REPRODUCE, BEAR, BREED ENGENDER, BEGET 等も生物に関する表現である。
- (12) 先頭を切って行動を取らないならば FOLLOW になるかも、おとなしく行儀よくする意の BEHAVE, CONDUCT 等を連想させる。
- (13) producer, director, manager は演劇、放送等の関係者であるが、英・米語ではその立場が、凡そ異なると聞く。この近辺の表現だけでなく、本稿全般にわたって、このように接尾辞を付けるなりすると、職業、立場、道具などを意味する表現が多い。気付いてみれば、そうあって然るべきであるが、そこからのアプローチも有意義であらう。
- (14) 闘う、競うということでは FIGHT, CONFLICT, COMPETE, CONTEND, CONTEST 等、更に、勝利ということでは DEFEAT, BEAT, 別の意で前述した WIN 等、別の意味場に属するとして、別途に論じる方が良いように思われる。